



D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL. 059-226-2766
FAX. 059-229-0967

N° 57 juillet 2001 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

三重日仏協会創立15周年 2001年度総会・記念行事と“パリ祭パーティー”のご案内

梅雨模様のうっとうしい日々が続きますが、みなさまにはご清栄のことと存じます。さて、本年も下記のように定例会と記念行事、恒例の『パリ祭』パーティーを開催いたします。ぜひご出席ください。総会以外は一般の方のご参加を歓迎します。お誘い合わせてどうぞ。

なお、会員各位にはこの会報をもって総会案内状に代えさせていただきますので、同封の葉書で6月末日までに出欠を必ずご回答ください。

日時 7月15日(日) pm 2:30 より受付

場所 津駅前・アスト津 ホテルグリーンパーク津(津駅東口すぐ)059-213-2111

① 総会 pm 3:00～

② 記念行事・パネルディスカッション pm 3:40～

<リヨン…パリ、三重…東京…その異質と同質>

パネリスト ジャン＝フランソワ・ダメモ氏(三重大講師)のほか

リヨン大学院から二人の研修生(P.4参照)らを予定

松阪市在住十余年、パリジアンもいまや半分以上三重県人?のダメモ氏。この4月から四日市市に企業研修に来ている二人のフランス女性ジゼルとクレア。これらのフランス人から見たフランスと日本。滞在期間による見方の相違、年代的なもの、出身地によるものなど、多面的な角度から日仏論を展開していただきます。会場からの発言歓迎。

③ パリ祭パーティー pm 5:00～6:30

今年は記念すべき15回目の『パリ祭』となります。一日遅れのキャトルズ・ジュイエですが、フランス人のお客さんを囲んでのソワレを楽しんでください。「豪華商品」の当たるクイズや日仏協会ならではのビンゴゲームも準備しています。

会費 パーティー参加者のみ 6,000円

フランスに生きる三重県人 (IV-2)

フランス人の夫とパリ郊外で暮らし始めた

清水みどり・マシュレさん その2

前号に続き、清水さんに新鮮なフランス印象を綴っていただきました。

清水さんは安芸郡河芸町出身の歯医者さん。バイオリニストでシャンソン歌手のフランス人男性ジャン＝ミシェル・マシュレさんと結婚、昨年11月からパリ郊外パルマン市に住んでおられます。

移民について

パリ市内を含めパリ郊外10キロ圏内を歩くとメトロの中、線路沿い、国道沿いの建物の壁など、あちこちにたくさんの落書きがあります。日本でも東京都内で問題になっていますがアルファベットを大きく太く書いたものや建物一面キャンバスにした劇画風の絵などいろいろで、せっかく美しい街並みが古びたゴーストタウンのように見えてしまいとても残念です。また電車の窓は釘のようなもので傷つけられ座席や車体も落書きで埋められえていることに最初はとても驚かされました。移民を大量に受け入れ始めた数年前かららしいのですが、それでもフランスにはそれじゃあ移民を追い出せという様にはならない懐深い気質があるようです。電車の中や駅、信号待ちの車に対し物乞いをする移民の人々を多く見かけますが、立ち止まったり、また車を止めてトランクから財布を出してまでもお金をあげる人がいたりするのも驚きでした。

まとめ

どこの国にも移民にともなう問題はありますが、フランスはそれを排除したり均一化したりしない懐の深さを感じられます。一般にフランス人は意地悪で不親切でまた英語を知ってるくせにフランス語しか話さないと言われますが、決してフランス語しか話さないのではなく日本人と同じように英語をあまり話せないようです。ある日主人の母の家へ行った時のことでした。前は主人と行ったのですが今回は初めて一人で行きました。主人の書いた地図を頼りに時々途中で止まりながらゆっくりと車を走らせていると、後ろの車が不意に私の横につけました。



清水みどりさん（ご自宅の庭で）

戸惑っているのにここにこした紳士が車から降りてきて道に迷っているのではないかと尋ねてきました。行き先を伝えるとその街なら知っているという私の車の前を走りずっと案内してくれ、また途中で他の人に聞きながら結構距離があったのですが家の前まで連れて行ってくれました。その後、紳士は窓から手を振りUターンしてお礼も言う間もなく帰って行ってしまいました。またある時は電車を待っていると何やらアナウンスがありそれを聞いた隣にいた女性が何かジョークを言い笑って話しかけてきたことがありました。フランス語を習い始めたばかりでアナウンスもあなたが言っていることもまだ分らないということを知ると、ゆっくりと話してくれ話が弾みその後列車の中で宿題を始めた私を見るとノートを取り上げ、パリにつくまでの1時間近くもチェックをしてくれました。また大雪が降った日は見知らぬ人に家まで送ってもらいました。その話を別の親切なフランス人に「フランス人はとても親切な人が多い。」と言うと「ありがとう。でもフランス人が特別親切なわけではなく世界中どこでも親切な人もいれば意地悪な人もいるのよ。」とフランス人らしい答えが返ってきて面白かったです。

またフランスといえば多くの人々が華やかなパリ、おいしい料理、ワインをイメージします。実際はそのイメージだけでなく、とても先進工業技術の進んだ国で超音速旅客機コンコルド、新幹線より速いTGV、世界がインターネットを始める前にフランス独自の国内だけで使えるミニテルというコンピュータシステムをもっていた事や宇宙ロケットの他の国の追随を許さない固形燃料開発、またよく知られていることですが核廃棄物の処理でも高い技術を誇っています。

最初の頃はお店などの休みやストライキが多く日本に比べて不便だと思いましたが裏を返せば日本はその便利さ豊かさを手にいれるために皆休みも取らず懸命に働いて精神的にゆとりの無い生活を送っているような気がします。また日本人はまず子供のときから他人に迷惑をかけてはいけないと育てられてきたので他人の利益を犯してまで自己主張することはなく穏やかな社会ですが、いつも世間に縛られているようなストレスがあるような気がします。それに対しフランスではやはり革命を起こして自分達の手で自由に手に入れたお国柄か、便利さや他人のために自分の自由、ゆとりある生活を犠牲にしたくないしそれを手に入れるための主張もはっきりとし、良くいえば皆が自由な生活を謳歌し悪く言えば犬のふん害に見られるような利己主義的な所もある国だと言えるのではないかと思います。ただ私達日本人は怒るにしても親切にしても、とてもシャイで、他人の前で自分をさらけだせないところがあります。日本も最近随分物騒になって来ましたが…注意して刺されたり…フランス人はそのような争いを見たりすると皆一言言わずにいられない性格をしているのであのような事件は起こりにくい気がします。とりわけ人に迷惑をかけている若者などを見ると皆で寄ってたかって怒ります。また西洋社会一般に共通しているかもしれませんが子供を連れていたり女性や荷物を抱えている人などを段差が在る所などで困っている人を見かけると男女を問わずこちらから頼まずとも当たり前のように手助けをしてくれます。フランス人のそのようなところは見習いたいなあと思いました。長くなりましたがフランスについてまたドンクで書かせていただく機会がありましたら報告したいと思います。

本年もリヨン大学より企業研修生が来県 本会主催・フランス語講座の講師もつとめる

恒例となったフランスのリヨン大学からの企業研修生が2名、3月末に四日市に着任しました。本年度4回目となるこの研修は、リヨン大学院高等専門研究科イヴリーヌ・ルクレール教授の指導のもと日本各地の企業に同大学院生を派遣しているもので、本会の豊田理事が当初からその受入れに協力しております。

本会は、Gisèle WETTING(ジゼル・ヴェリトン)さんとCléa PATIN(クレア・パタン)さんの二人が、4月から3ヵ月、四日市近鉄百貨店で研修を続けています。

5月から四日市でも開催された三重日仏協会主催のフランス語入門講座ではこの二人が講師をつとめ、30余名の受講者が2クラスにわかれて“フランス語に親しむ10回”に参加しています。

なおジゼルさんクレアさんを歓迎するため、本会4月定例会を12日(木)、四日市支部担当で豊田理事宅で開催、会員や講座受講者約40人が参加して二人を囲んで歓談しました。二人の手作りクレープがとりわけ好評だったとのことでした。



フランス語講座講師をつとめる
クレアさん(右)とジゼルさん(左)

リヨン大学—三重大学の交流協定も進行中

また、この5月からリヨン第三大学・政治学院と三重大学人文学部との学術交流協定の交渉が行われており、細部のつめの段階に入っているとのこと。交渉に当たっている三重大学・山本寛助教授(フランス語)は、未解決の重要な課題は来年10月から受入れる学生の住居のことで、現段階では留学生会館への受入れが確実とは言えないので、一般家庭で一年間フランス学生に部屋を貸していただける「篤志家」はないだろうか、と話しています。予算は月1万8千円以内とのこと。(食事不要)

6/10(日)~7/15(日)

ボンビドゥーセンター所蔵

デュフィ展

20世紀芸術の殿堂といわれるパリのボンビドゥーセンター・国立近代美術館が企画した展覧会で、同館が所蔵しているラウル・デュフィの油彩作品のほとんどすべてが展示されています。

三重県立美術館(津市)

観覧料 一般当日 1,000円 (7/15は「家庭の日」で観覧無料)

三重県立美術館のご好意により若干の招待券があります。ご希望の会員は事務局まで(先着順)。

(会員の消息) 在パリ4年 亀井カノンさんが帰国

1997年、高校教諭を退職後フランスに渡り、パリはモンパルナスのアパートに住んで四季の風物やすぐれた美術作品をスケッチするなど、独自で研鑽を積んでおられた亀井カノンさん(津市)が4月末帰国されました。自作の俳句をそえた葉書大の作品は98年の本会主催『プロバンス展』にも友情出品され、その独自のすぐれた味わいは大好評でした。聞くところによればカノンさん、この4年間にルーヴルに足を運ぶことウン百回、書かれたスケッチはウン千枚に上るらしく、何らかの機会にぜひ見せていただきたいものです。